

あっが隊新聞

Vol.83

2020年3月25日

編集者：片山 素晴



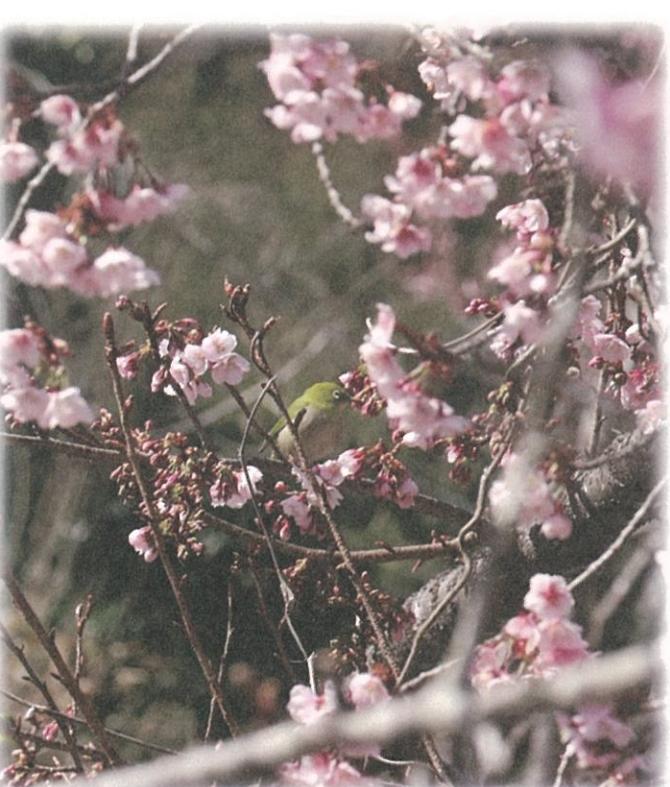
ゆらゆら変遷紀～天龍村ver.～ 初瀬健太

～二年間ありがとうございました～

率直に言うと、今月末で天龍村を去ることに驚いています。自分で決めたわけだけど、大きな決断をしたわりには、ほかに何かが変わったわけではないし、家の片づけも、引っ越しの手筈も全く整っていないし、世の中に向かうべき場所も交渉中で決まっていないし、世の中は新型コロナに席巻され右往左往しています。あまりの暖かさに桜前线は早々とスタートラインに立ち、おそらくこの新聞が各戸に渡っているときには北国に向かって駆け上がりだらうと思います。地域おこし協力隊を辞めて、天龍村を去るという事実がうまく実感できないほど、この決断に起因する出来事は何もなく、三月も一日、そしてまた一日と、定刻通りに発着する電車のように過ぎていきます。

最も長い3年間ある任期を満了せずに辞めることには、もちろん理由はあるけれど、それをきちんと、少しの御幣もなく口頭で説明するのは難しそうです。そういう公的な場（ネットにも載るから）に書くにはそれなりに言葉を選ばないといけなくて、この絡みあつた理由の紐の塊を一本ずつほどいて説明するのは骨が折れます。それでも、何も述べずに辞めるものが変わり、将来自由を再設計したときに天龍村での生活がイメージで生きているスキルでいま以上に出来ることは何もなく、これまでと平行線で終わってしまうであろうこと。他にも多々あります。それは難しかつたし、無理に続けても誰にとつても良い結果は生まれないだろうと思い、辞めて去ることを決めました。

過ぎ去つてしまえば二年間の月日はあつという間で、積み上げてきたものはいくつもあるし、その一つも決して一朝一夕で築き上げてきたわけではな



く、それを置き去りにしてまた一から始めるのは楽ではなく、いつかどこかでこの決断を後悔するときがあるかもしれません。そういう覚悟のうえでの決断なので、ご理解いただければありがたいです。多くの方々と出会い、支えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。特に大河内地区の皆さんには本当にお世話になりました。もつともっと力になりたい気持ちはありました。スキルも気力も限界でした。若さと勢いだけでは乗り越えることができない壁の存在に今までと、これから自分の自分を見つめなおすきっかけになりました。天龍村を選んだこと、ここで過ごしたこと、と、水稻を栽培したこと、そして去るという選択をしたことにそれなりの意味があつたと信じているし、意味を与えられるような今後を過ごしていきたいと思います。

最後になりますが、あらためて二年間ありがとうございました。自分が去つたことを後悔させるぐらい、天龍村が窓の外に広がる三月の青空のようにピカピカに輝くことを願っています。



天龍村に来て2度目の春がやつてきました。中井侍のお茶に関わり始めたのも去年の春からです。今年は去年以上に色々な春の風景が目に入り、楽しいです。

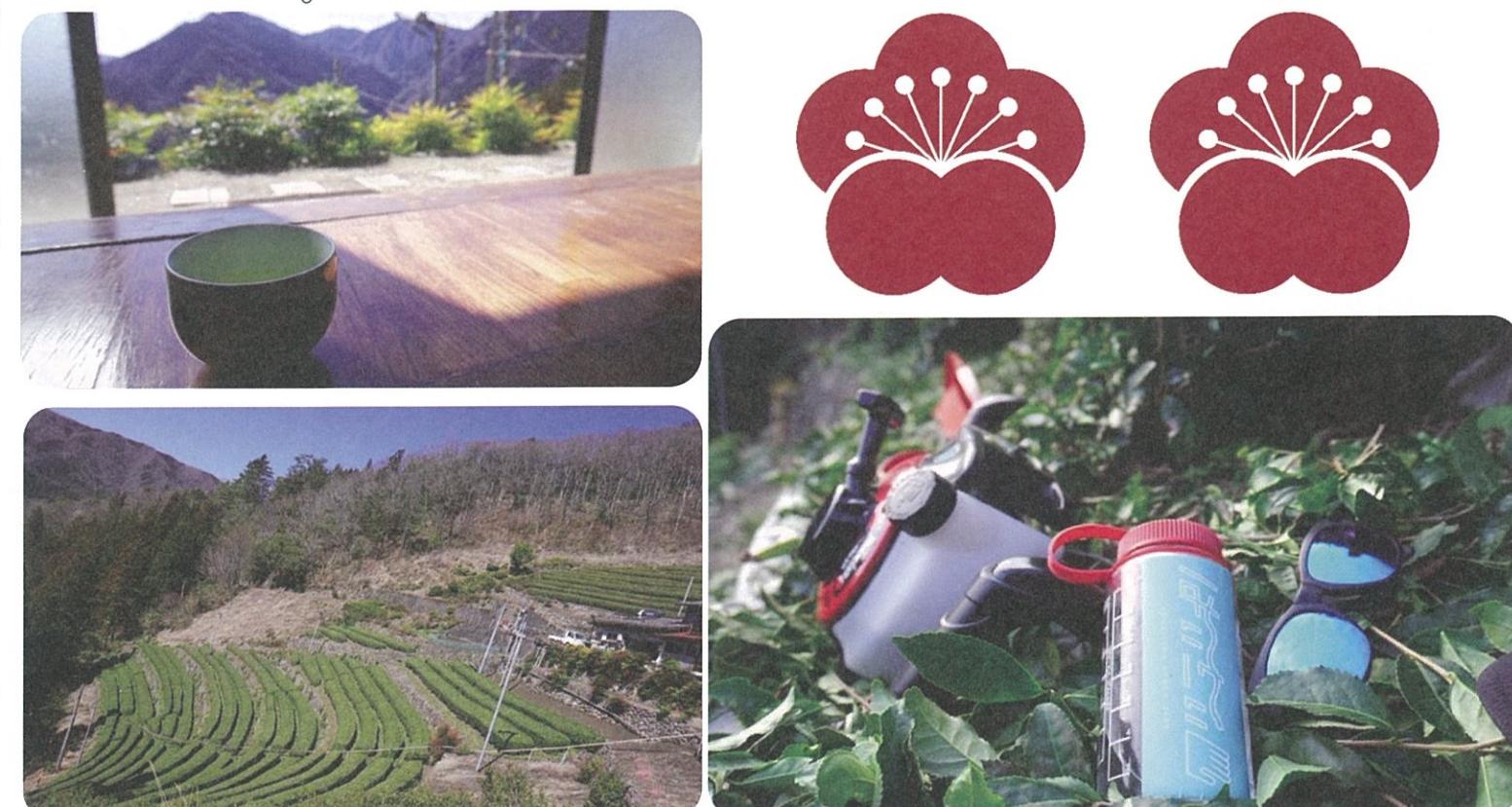
あつという間に茶摘みが始まっていますとあつという間に夏がくるんでしょう。

今しか見られない春のお茶畑の風景や作業、農家さんたちの技術を目に焼き付けたいと思います。

現在はほんとにお茶の整枝作業で手一杯なので、この新聞もあまり文章を長く書けませんでした。ごめんなさい。

文章で伝えられない分、写真を添えておきます。

コロナに負けず頑張りましょう！



記・本多 紗智

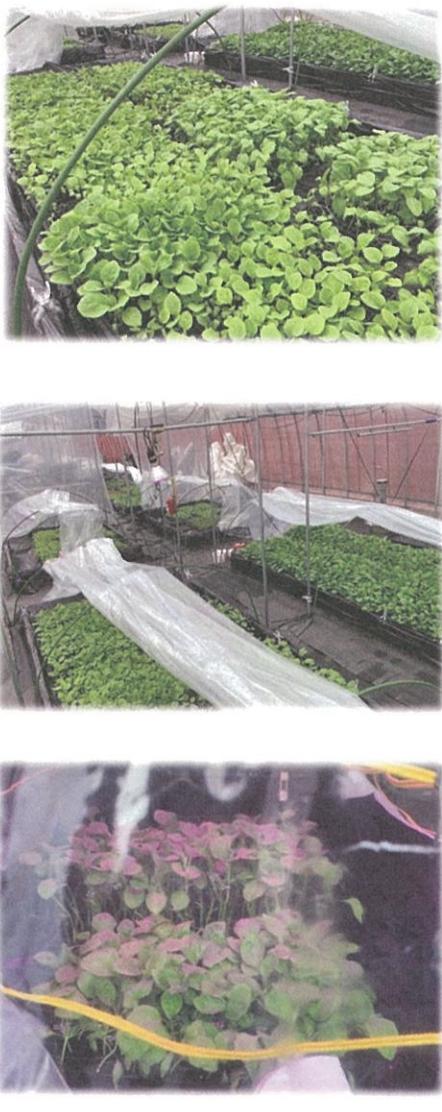
こんにちは。一気に暖かくなつてきましたね。伊那小沢駅のカンザクラもそろそろ見ごろを迎えている様子です。

世の中はコロナウイルス狂騒曲といった様相を呈していますが、混乱した社会とは別世界のような春の風景を見ています。わからなくなつてしまします。情報が溢れていますが、正しく恐れることが大切なではないでしょうか。

協力隊としてこの村に居られるのも、どうとう残り一年となりました。二年間、色々なことを経験させていただきたおかげで、今後自分がどのように生きていきたいのか、自分にとつて本当に必要なものはなんなのか、たくさん気づきがありました。

今後的人生でこの三年間を振り返った時に、きっかけはなんであれ天龍村に居ることが出来て良かった、協力隊の経験は確実に自分の人生の糧になつた、と思えるような時間の使い方をしていかねばと考えています。

二月の活動 篠田大樹



ついでなすの接ぎ木苗

喬木村のイチゴ農家さんのところへもお邪魔し、作業をさせていただきました。天龍村でも少しやつてみたいと思っているので貴重な経験になりました。

二月からはお茶の営業、販売を開始しました。早速、南箕輪村の飲食店の藤十郎茶やさんで購入していただけました。今後も扱ってくれそうですし、お茶摘みツアーナどもしたいと仰ってくれたので今後が楽しみです。また東京で行なつたイベント等で個人で買つてくれました。

また、二月からは夏野菜の作付け準備が忙しくなつてきました。メインで栽培しているのは板倉貴樹さんに苗づくりの現場を見せていただきました。ホムセンターや農業関連会社へ様々な苗を卸しているそうで、厳格な温度管理や湿度管理のもと栽培されていてとても勉強になりました。

その他に自分で様々な野菜の種を蒔き始めました。芽が出て大きくなるのが楽しみです。



そのため、村内をうろうろしながら写真を撮つたり、声をかけてお話を聞いたりすることが増えると思いますが、その際はぜひご協力のほど、よろしくお願ひいたし

だいたいのイメージは出来ているのですが、「顔」といつてもいい程に大切なタイトルの妙案が浮かばず苦戦しています。こういう時はちょっと遠出したりして気分転換が大切なですが、ちょっと外に出もたらしてしまって「時世ですね」。

三年目は村の四季や行事、人の暮らしを写真や文章で記録した広報誌のようなものを出来れば年四回(春夏秋冬に一回)発行していく予定でいます。

こんにちは。地域おこし協力隊4ヶ月目を迎えた片山です。

まいまいきなりですが、西原地区へ引っ越しました。協力隊着任時の住宅事情によると、毎朝確認ができる助かつてます。

二月下旬にハウス内でポットにまきで霜に移動します。負けたサニーレタスの定植と白(冬)ネギの種蒌をまきで、2月下旬にハウス内では6センチ程の高さには芽を出し、今は5枚程度で大きめに育っています。

●白ネギの注目栄養成分
アリシン・・生活習慣病の防止・冷え性の改善・不眠症にも効果あり
(ビタミンB1と相性が良く、豚肉などと一緒に召し上がり下さい)

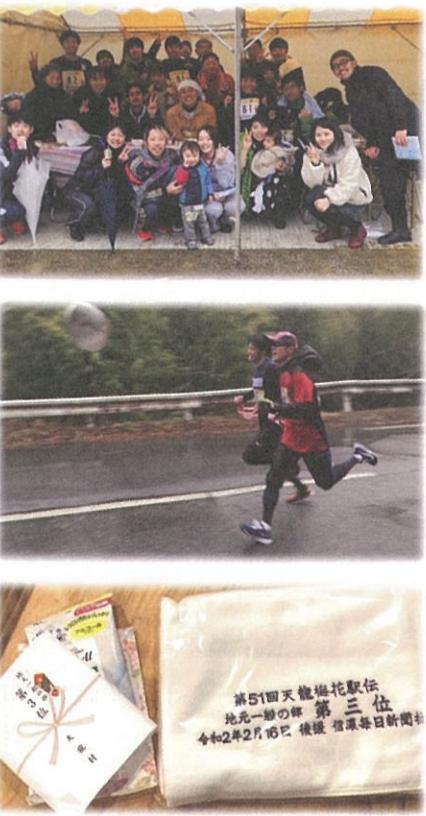
(記・片山素晴)



また、二月十六日には天龍梅花駅伝があり、天龍村民のみでメンバー構成した満月屋Bチームで走りました。当日に向けて十二月後半から走り始め、一月からは毎日走つて備えました。本番五日前に体調を崩してしまい、回復しきらないまま本番を迎えてしました。アップするだけで吐き気を催す体調に加え、大雨といふコンディションで思うように体が動きませんでした。しかし、自分は一区だったのと後に五人待つていてことを考えることで何とか頑張れ、目標タイムの三十秒遅れにとどめてタスキを繋ぐことが出来ました。

チームの結果は全体で七十九位でしたが地元の部で三位入賞することが出来ました!自分は区間四十六位と大きな貯金は作れませんでしたが、満月屋の三チームの中でトップのペースタイム(三分三十九秒台/km)で走れたので多少の貢献は出来たかと思います。来年また地元チームで出られたら優勝を狙いたいです。

最後になりましたが、満月屋チームの皆さんももちろん、運営に携われた方々、物販や声援で盛り上げてくださった皆様のおかげもあって楽しめましたと思います、ありがとうございました。



第51回天龍梅花駅伝
地元一般の部 第三位
4月2月16日 撮影:信濃日報